



「シンポジウム」において確認した「到達点」と「これからの課題」

1. 到達点（「中間報告」から1年 職場からの検証運動の到達点）

(1) 安全労働

- 組合員の安全と健康を担保し、安心感を得るため、Dシャトルを活用した検証では放射線量を「見える化」
⇒会社は働く私たちの放射線管理をしていない。

(2) 健康労働

- 「低線量でも健康を害する」「低線量であっても放射能被ばくを避ける」ことを認識
- 数値には見えない内部被ばくの危険性を認識
⇒自然界にすでに存在する放射能と今回の原発事故で放出された本来は自然界に存在しない放射能との危険は全く異なることを認識する

(3) 新たなエネルギー政策

- 福島住民・地域のための復興と街づくりに向けて（定点調査）

2. これからの課題（今後の検証運動の方向性と1年後の「最終報告」に向けて）

(1) 安全労働

- 「議事録確認」を遵守させる取り組みの継続
団体交渉での申し入れ項目の検討
- 帰還困難区域で業務に従事する際には「特定線量下業務従事者講習」を必ず受講させる
 - 帰還困難区域（高線量区間）である常磐線を運行した車両は毎日洗浄を行うこと
 - 長時間停車の際のバスによる救援体制のあり方について
 - 樹木伐採時の高い空間線量と積算線量の計測と管理のあり方について

(2) 健康労働

- 継続した放射線量管理（他地域の放射線量と対比を行い、放射線量の違いを明確にする）
健康診断の検診項目の具体化と検診のあり方の抜本的な見直し
健康管理と健康診断の充実に向けた職場からの取り組み（団体交渉と安全衛生委員会）
検証運動を通じた鉄道業界における「安全ガイドライン（放射線管理に伴う安全基準）」の策定
- 検証データの有効活用に向けた有識者（専門分野）との意見交換

(3) 原発に変わる新たなエネルギー政策

- 住民の帰還と「福島イノベーション・コースト構想」の検証（定点調査による検証運動の継続）
汚染処理水を海洋放出に反対し、地域で活動する市民団体への支援・連帯
JR 東日本会社において蓄電池車両の積極的な導入と蓄電設備の充実
ご当地エネルギーへの積極的な参画と支援・連帯

3. 「分散型社会」への移行に向けて ※「分散」と「分配」

- 「グリーンリカバリー」と「グリーンジョブ」の実現による私たちの「働き方」変革
「グリーンリカバリー」と「グリーンジョブ」の実現を通じた社会運動の創造
（グリーンワークス、SDGsワークス連帯）

4. エネルギー政策の転換は「平和な未来社会」の創造

- 繰り返される侵略・戦争の根拠は資源略奪
議員懇談会と連携した地域社会との連帯づくり



3月20日に開催した「オンラインシンポジウム」の冊子を発刊します！
今後はシンポジウムで確認した「到達点」と「これからの課題」を明確にして運動を創ります！

冊子は JTSU ホームページからダウンロードできます。

私たちは、「命」と「健康」を守るため、連帯の輪を広げて運動を創り出していきます！